

# 志村延命寺板碑群

(しむらえんめいじ いたびぐん)

板橋区登録有形文化財(考古資料) 昭和61年2月14日登録

所在地：板橋区志村1-21-12

交通：都営三田線「志村坂上駅」徒歩3分

国際興業バス「志村二丁目」徒歩3分

[赤羽駅西口・池袋西口⇄高島平操車場  
(赤56・赤56-3・池20)]

延命寺は見次山松寿院と号する真言宗寺院です。大永4年(1524)、志村城をめぐる戦いによって討死した見次権太郎の菩提を弔うために、父権兵衛が開基となり、自宅を寺としたことに始まるといわれています。

文化財となっている板碑は境内に14基あります。そのうち年号が判明するものは9点で、その作成年代は、建長4年(1252)・康永2年(1343)・貞和3年(1347)が2点・延文4年(1359)・康暦3年(1381)・永徳3年(1383)・文明6年(1474)・文明19年です。

このうち、建長4年の板碑は区内最古のもので、心字座しんじざに胎藏界大日如来たいざうかいだい にちによらい しほじの種子「ア」が刻まれています。心字座を刻む板碑はこのほかに、埼玉県東松山市内に3基確認されているだけであり、希少な板碑といえます。なお、この板碑は明治23年(1890)に志村字天神前しむら じあまのこから発掘されたもので、同42年に城山城址より発掘された文明6年の板碑や、同43年に字天神前より発掘された文明19年の板碑とともに、昭和6年の段階で延命寺に集められ、コンクリートで固定されて碑が建てられました。

